# シラバス参照

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目ナンバー | RMGT3522 | | |
| 科目名 | 国民保護 | | |
| 担当教員 | 勝股　秀通 | | |
| 対象学年 | 2年,3年,4年 | 開講学期 | 後期 |
| 曜日・時限 | 月２ | | |
| 講義室 | 1205 | 単位区分 | 選,選必 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目大分類 | 専門 | | |
| 科目中分類 | 専門展開 | | |
| 科目小分類 | 専門・危機管理 | | |
| 科目の位置付け（開発能力） | ■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連<br>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。<br>DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。<br>DP4-F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。<br>DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。<br>DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。<br>■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連<br>A1グローバル感覚－10%<br>C1倫理的思考・社会認識－10%<br>D1市民的素養と参加 －10%<br>E1学識と専門技能－30%<br>F2問題解決－25%<br>G1状況把握－10%<br>K1ライティング・コミュニケーション－5% | | |
| 教員の実務経験 | 担当教員は、全国紙の安全保障問題の専門記者として、有事法制（武力攻撃事態対処法や国民保護法など）の制定過程を丹念に取材し、現行法制の問題点や課題などについて論説等を多数発表しているほか、米軍と自衛隊による日米共同演習や原発テロを想定した訓練等にも参加している。また、緊急時の在外邦人保護についても、90年代以降の湾岸戦争やルワンダ難民救援、東ティモールPKOなどの現場取材で得た知見に基づいて講義することができる。授業においては、有事及び国民保護という概念があいまいであった歴史的背景に加え、国民保護法制定過程の議論、在外邦人保護の難しさなどについても、豊富な取材という実務経験を踏まえて講義を実施します。（第3回・4回・5回・6回・10回・12回・13回）など適宜 | | |
| 成績ターゲット区分 | ■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応<br>３　発展期　～　４　定着期 | | |
| 科目概要・キーワード | 日本に対する外部からの武力攻撃や大規模なテロなど武力攻撃の手段に準じる手段により多数を殺傷する行為が発生し、または発生する明白な危険がある「武力攻撃事態」や「緊急対処事態」において国民の生命、身体及び財産を保護する取組を国民保護といいます。国民保護は | | |

| | |
|---|---|
| | 国民保護法と国民保護計画に基づいています。国民保護は自治体が一義的な責任を有する災害対応とは異なり、国が主体となって国民の避難及び救難、武力災害等への対応を行うものです。この比較的新しく、災害対策とは異なったスキームをもつ国民保護の現状を概観して基礎的な知識を身につけることを目標とします。さらに実際の訓練などの実例を取り上げて今後の課題と取組を考察します。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。<br><br>■キーワード：逆コース、脅威、国民保護、在外邦人保護、ウクライナ戦争 |
| 授業の趣旨 | ■副題<br>有事における国民保護とは。守るべき国民とは。幅広い視野から国民保護について考え、現行法の課題を含め、幅広く国民保護について理解を深めていきます。と同時に、ウクライナ戦争や日本が直面する安全保障環境からも多くの教訓や知識を学びましょう。<br>■授業の目的<br>国家は国民を守る義務があるにもかかわらず、戦後の長きにわたって、日本では国民を保護するための法制度が欠落していました。そうした背景を理解しながら、国民保護法が制定された理由と目的を理解し、国民保護の考え方、仕組み、国、自治体、事業者、国民など関係機関（者）の役割について習得する。同時に、制定当時から数多く指摘されて来た法制度の課題についても理解し、具体的な脅威認識などを踏まえながら、有事における国民保護のあるべき姿について考察する能力を身につけることを目的とします。<br>■授業のポイント<br>国民保護とはいったい何だろうか。日本にとって必要な国民保護とは・・・。そうした疑問について様々な角度から「解」を導き出す。在外邦人の保護を含め、国民保護への取り組みはまだ日が浅く、政府や与野党間はもとより国民の間でも「有事」をめぐる認識は一致していない。そうした状況の中にあっても、様々な危機を想定し、備えておくことは極めて重要です。授業では、国民保護法にとどまらず、在外自国民（邦人）を含めた国民を守るために必要な保護の取り組みや考え方について、現在の訓練場面や過去の実例などを踏まえながら、現状を把握し、理解しながら様々な課題について考えていきます。 |
| 総合到達目標 | ■　国民保護を目的とする法制度が制定された理由と目的を理解するとともに、現行法やシステムの問題点や課題を学修し、必要な国民保護について様々な視点から説明することができるようになる。<br>・戦後の長きにわたって国民を保護する法制度が欠落していた理由について、日本政治及び日本社会の言論や動向を踏まえて説明することができる。<br>・国民保護法が制定される背景と制定過程について有事法制の議論と関連させて説明することができる。<br>・少子高齢化に伴う人口減少社会の中で、都道府県及び市町村が作成する国民保護計画の現状と問題点を説明することができる。<br>■　国民保護法の制定から20年近くが経過し、策定当時の安全保障環境や脅威認識が大きく様変わりする中で、国民保護をめぐる諸課題を分析・抽出して、現行法の課題や問題点を含めて今後の取り組みについて、自分の意見をまとめられるようになる。<br>・沖縄・南西諸島をはじめとする離島などは過疎化が急速に進んでおり、そうした状況下で国民保護を実施する地方自治体の課題を発見し、その解決策について考察することができる。<br>・テロやミサイル着弾、武力攻撃事態に至るまで様々な国民保護訓練の実施状況を比較することで、国民保護訓練のあり方について考察することができる。<br>・広く国民に対し、国民保護の重要性と必要性を認識してもらう情報発信のあり方について、効果的な取り組みや手立てを考えることができる。 |
| 成績評価方法 | 次の方法により成績を評価しますが、いずれの方法についても提出方法等は授業において指示します。<br>■ミニテスト1回（25%）<br>（評価の観点）国民保護とは何か。敗戦から60年近くたってようやく国民保護法など有事法制が成立した背景やその理由について、日本政治や日本社会の動向を踏まえてきちんと把握できているか評価します。<br>（フィードバックの方法）授業の中でミニテストの出題意図を含めて解説します。<br>■まとめのテスト１回（50%）<br>（評価の観点）基礎的な専門知識が修得できているか、国民保護の課題と問題点についてしっかりと習得できているか、などについて評価します。<br>（フィードバック）授業の中で、まとめのテストの出題意図や解答例などを詳しく説明します。<br>■リアクションペーパー（25%）<br>（評価のポイント）授業の内容についての意見や質問、疑問に思ったことなどを提出してもらい、授業に対する取り組みを評価します。<br>（フィードバック）授業の中で寄せられた意見や質問、疑問に思ったことについて解説しま |

| | |
|---|---|
| | す。 |
| 履修条件 | 特にありません。 |
| 履修上の注意点 | 戦後の日本政治、日本社会の流れを背景にした内容であり、我が国の危機管理の原点でもあります。予習に加え、毎回しっかりと復習し、少しでも多くの知識を吸収し、定着させてください。 |
| 授業内容 | |

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1 | ①授業テーマ　ガイダンス（有事における国民保護。ウクライナ戦争から何を学ぶのか）<br>②授業概要　授業の全体の構成、授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法について説明することができる（C1、E1）。<br>③予習（120分）シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。北朝鮮の核とミサイル開発、中国の軍事力増大といった日本を取り巻く安全保障環境について、最近の新聞記事などをチェックしておく。<br>④復習（120分）授業の内容を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。 |
| 2 | ①授業テーマ　国家の本義を忘れた日本<br>②授業概要　敗戦で連合国の統治下に置かれた日本では、国家の平和と国民の安全を守るという国家の本義が忘れられ、「安全は米国頼み」という無責任な依存心が蔓延する。そうした戦後社会の流れを概観すると同時に、東日本など二つの大震災、新型コロナウイルスのパンデミックでも繰り返された「想定外」という危機対応を通じて、100年に１度という危機に備えることの重要性について認識し、説明できるようになる（C1、E1、F2）。<br>③予習（120分）教科書『検証 危機の25年』の「はじめに」と「第1章」をよく読んで、平和や安全を巡る戦後日本の議論や対立について理解しておく。<br>④復習（120分）講義内容を振り返るとともに、授業で紹介した東北電力の津波対策から危機への備えについて再確認しておく。 |
| 3 | ①授業テーマ　逆コースをたどってきた日本<br>②授業概要　日本の安全保障をめぐる議論で転機となった二つの危機（湾岸危機と朝鮮半島危機）を振り返るとともに、2001年になって初めて「有事法制」の検討に着手するまでを検証する。その過程で「自国の平和と安全」「周辺地域の安定」「国際秩序の維持」という普通の国家が歩む道程とは逆コースで安全保障を進めてきた日本の実態について、その問題点を認識し、説明することができる（A1、C1、E1）。授業では記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）教科書『検証 危機の25年』の「第2章」をよく読んで、90年代の日本を取り巻く安全保障環境について理解を深めておく。<br>④復習（120分）授業の内容を振り返って、国民保護を含め有事対応について主体性のなかった日本の政治、社会の状況について理解しておく。 |
| 4 | ①授業テーマ　国民保護法制定の経緯と議論<br>②授業概要　有事法制のうち「武力攻撃事態対処法」が成立してから1年後に制定された「国民保護法」だが、何が議論され、何が議論されなかったのか。取材メモから立法過程の議論を再現し、政府・地方自治体・そして住民の役割分担について把握し、政治の矛盾について説明できるようになる（C1、E1、F2）。授業では記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）教科書『検証 危機の25年』の「第3章」をよく読んで、有事法制の検討に着手する政治的な流れについて理解を深めておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、国民保護法において、国民の協力が「任意」となった理由について再検証しておく。 |
| 5 | ①授業テーマ　現行の国民保護法について<br>②授業概要　国民保護法はどのような事態を想定し、政府と地方自治体、指定公共機関、そして国民は何をするのか。2004年の制定から18年が経過し、国民保護法に基づく国民保護計画の内容と訓練の実態について把握し、現行法の問題点について指摘できるようになる（C1、E1、F2）。記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）「内閣官房国民保護ポータルサイト」に掲載されている「国民の保護に関する基本指針」をよく読んで、武力攻撃事態の類型と緊急対処事態の分類についてそれぞれの概要をつかんでおく。<br>④復習（120分）国民保護法の制定から18年が経過し、見直す必要のある事項などについて、自分なりに指摘できるようにしておく。 |
| 6 | ①授業テーマ　国民保護法の問題点（ミニレポートの実施）<br>②授業概要　制定当初から指摘されていた現行法の問題点について、例えば、モデルと |

| | | |
|---|---|---|
| | | なった「災害対策基本法」と「国民保護法」を比較し、国民の協力に関する事項はどのような違いがあるのか、その違いはどのような経緯で生まれたのか、といったポイントに対し、制定過程の議論を理解し、ミニレポートを通じて、その差異について説明できるようになる（C1、E1、F2、K1）。記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）教科書『検証 危機の25年』の第1章から第3章までを熟読し、議論の背景に対する理解を深めると同時に、5回目の授業終了後に配布した資料を読んで内容を把握しておく。<br>④復習（120分）授業でも取り上げた「国民保護における住民の協力」と「コロナ禍における政府の要請」を比較し、問題の所在について考えを整理しておく。 |
| | 7 | ①授業テーマ　国民保護と避難（ミニレポートの講評）<br>②授業概要　多くの国民保護訓練では、地域の体育館などへの住民避難が実施されている。だが、テロへの備えと武力攻撃への備えとでは、事前に必要な時間も、避難の規模についても異質な内容であり、それが一つの法律の中に組み込まれている。自然災害でも住民避難は多種多様であり、有事における国民保護、避難とはどのような内容を想定する必要があるのか、国民保護訓練の内容から住民避難の問題点について説明できるようになる（C1、D1、E1、F2）。<br>③予習（120分）「内閣官房国民保護ポータルサイト」から国民保護訓練の内容について把握するとともに、事前に配布した資料をよく読んで、住民避難について理解を深めておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、災害対応における住民の避難との違いについて考えておく。 |
| | 8 | ①授業テーマ　日本社会の情勢の変化<br>②授業概要　少子高齢化が進む中で事態対処勢力（担当者などの要員）不足は顕著であり喫緊の課題でもある。国民保護に対する地方自治体の意識について、保護計画は策定しているが、その実効性についてどのように検証しているのか。災害時の要避難援護者対策でも個人情報保護法の制約があるが、国民保護ではどうなっているのか。そうした日本社会の情勢の変化の中で現行法が機能するための道程について理解し、説明できるようになる（D1、E1、F2）。<br>③予習（120分）事前に配布する論文「離島問題に見る基礎自治体の国民保護への対応」をよく読んで、人的資源の課題について理解を深めておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、少子高齢化がもたらす国民保護への危機感について自分の考えをまとめておく。 |
| | 9 | ①授業テーマ　史実の検証・沖縄戦などの教訓<br>②授業概要　戦前の日本は国民保護は無策に等しく、第２次世界大戦では戦局が悪化してから慌てて住民避難（疎開）などの政策を講じたものの、沖縄では多くの住民を戦渦に巻き込んでしまった。そうした史実に加え、1986年の伊豆大島三原山の噴火に伴い全住民らが島外に避難した事例を検証し、現代に通じる多くの課題について理解し、説明できるようになる（C1、E1、F2）。<br>③予習（120分）事前に配布する沖縄戦など離島住民の安全確保に関する論文をよく読み、概要をしっかり把握しておく。<br>④復習（120分）第２次大戦の教訓から国民保護の難しさと必要性について理解し、確認する。 |
| | 10 | ①授業テーマ　国民保護から抜け落ちた在外自国民（邦人）の保護<br>②授業概要　1980年代から90年代にかけて起きたイランイラク戦争や湾岸危機、南北イエメンの内戦、そして最近ではアフガニスタンからの邦人避難など在外自国民（邦人）を保護する事態が発生している。その一方で、危険地域にいる日本人に対して「自己責任」という議論もあり、国民の間には邦人保護が国家の責務であるという理解に乏しい。過去の邦人保護の実例を学ぶとともに、90年代以降、自衛隊法を改正し、自衛隊が邦人保護の任務を受け持つことになったが、その法的な課題を理解し、邦人保護の必要性を説明できるようになる（A1、E1、F2）。記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）事前に配布する在外邦人の保護に関する論文等をよく読み、海外における日本人の安全確保について、現状と問題点を把握しておく。<br>④復習（120分）授業で取り上げた朝鮮半島有事における邦人保護について、多くの問題点について理解を深め、問題点を指摘できるようにする。 |
| | 11 | ①授業テーマ　世界の国民保護を知る<br>②授業概要　武力紛争や治安の悪化、大規模な自然災害などの理由によって、海外に滞在する自国民の安全確保を含めて、各国政府はそれぞれ自国民保護活動を実施している。欧米や韓国などの制度、実際の運用例などを把握するとともに、日本との違い、日本に必要な視点について理解することができる（A1、D1、E1）。<br>③予習（120分）事前に配布する「主要先進国における在外自国民保護の取り組み」（防衛研究所紀要）をよく読み、主要国における自国民保護の法制度や実施例について把握しておく。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ④復習（120分）主要国と日本の在外自国民保護の違いを認識し、問題点と課題をまとめておく。 |
| | 12 | ①授業テーマ　危機対応は事前の段取りがすべて<br>②授業概要　北朝鮮の武装工作員による重要施設の破壊工作などが想定されて現在の国民保護法が作られたが、それから20年近くが経過し、日本を取り巻く安全保障環境は大きく様変わりしている。北朝鮮による核ミサイルの恐怖に加え、沖縄・尖閣諸島を巡る中国との領有権争い、さらに中国の軍事的脅威をしっかりと受け止めなければならない。授業では、そうした日本の安全保障環境を概観したうえで、東日本大震災でどうして自衛隊は被災地への部隊展開が素早く、スムーズだったのか。実例を通して、「危機対応は事前の段取りがすべて」という危機管理の要諦を理解し、その重要性を説明できるようになる（A1、E1、F2）。授業では記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）教科書『検証 危機の25年』の第4章と終章をよく読んで、厳しさを増す日本を取り巻く2000年以降の安全保障環境について理解を深めておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、国民保護に必要な事前の準備について自分の考えをまとめておく。 |
| | 13 | ①授業テーマ　事例研究「尖閣諸島をめぐる日中衝突と台湾有事」<br>②授業概要　12回目の授業で学んだ「危機対応は事前の段取りがすべて」に基づき、尖閣諸島をめぐる日中衝突で沖縄・先島諸島の住民避難の必要性は。台湾有事の場合には、先島諸島の住民避難に加え、中国や台湾に在住する自国民保護も準備し、実行しなければならない。そうした二つの事例を検証し、国民保護法の現代的課題について理解し、問題点を指摘することができる（A1、D1、E1、F2、G1）。授業では記者として取材した現場などの状況を伝えます。<br>③予習（120分）事前に配布する資料をよく読んで、国内の住民保護と邦人保護が同時並行的に必要とされる台湾海峡危機（有事）について概要を把握しておく。<br>④復習（120分）授業内容に加え、7回目の授業後に配布した論文「離島問題に見る基礎自治体の国民保護への対応」を読み返し、事例研究をめぐる問題点と課題について自分の考えをまとめておく。 |
| | 14 | ①授業テーマ　まとめのテスト（設問に対する記述方式）<br>②授業概要　これまでの学びを通して、少子高齢化に伴う人口減少、様変わりする安全保障環境といった状況の中で、国民保護を充実させ、機能させるために必要な多くの課題に加え、国民保護の重要性を国民に理解してもらうために必要な手立てなどを考え、自分の言葉で記述できるようになる（E1、F2、K1）、<br>③予習（120分）これまでの授業を振り返り、国民保護の問題点や課題について、自分で説明できるようにしておく。<br>④復習（120分）新聞やテレビといったリアルメディアに加え、インターネットの活用など、国民への普及啓発を効果的に実施するためには、どのような方法があるか考えておく。 |
| | 15 | ①授業テーマ　まとめのテストの講評<br>②授業概要　前回実施したまとめのテストについて、設問の目的、解答例などを交えて多角的に説明する。受講生は自分の解答に加え、幅広い視点から国民保護について認識し理解することができる（E1、F2、G1）。<br>③予習（120分）「国民保護ポータルサイト」に掲載された国民保護共同訓練について実施状況を把握しておく。<br>④復習（120分）授業全体を復習し、国民保護と邦人保護について、その必要性と重要性について、自分の考えをまとめておく。 |

| | |
|---|---|
| 関連科目 | リスクコミュニケーション論　RMGT1304、テロ対策論　RMGT3528、安全保障論２　RMGT3554、防衛法制　RMGT3452、国際人道法RMGT3453　ジャーナリズム論RMGT3575Sなどと関連しています。 |
| 教科書 | 勝股秀通『検証 危機の25年』（2017）並木書房 |
| 参考書・参考ＵＲＬ | 浜谷英博（2004）『要説 国民保護法』内外出版<br>森本敏・浜谷英博（2005）『早わかり国民保護法』PHP新書<br>武田康裕編（2020）『論究 日本の危機管理体制』芙蓉書房出版<br>上記のほかの参考書及び参考資料については授業の中で適宜説明します。このほか、授業で取り上げるテーマに即した論文等は予習のために適宜事前に配布します。<br>内閣官房国民保護ポータルサイトhttp://www.kokuminhogo.go.jp/ |
| 連絡先・オフィスアワー | ■連絡先　開講時に告知します。<br>■オフィスアワー　メールで事前にアポイントを取ってください。適宜対応します。 |

| | |
|---|---|
| 研究比率 | ■危機管理領域との対応<br>災害マネジメント20%；パブリックセキュリティ20%；グローバルセキュリティ30%；情報セキュリティ30%<br>■危機管理学と法学のバランス<br>危機管理学60%；法学40% |

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.